

Kochi Earth-science Circle

高知地学研究会会報

第66号

令和6年

6月30発行



才女 まひろ（石山寺 源氏の間）

高知地学研究会はただ今、令和6年度会員を募集しております。

令和6年度会員数および年会費（令和6年6月29日現在）

正会員	大学生会員	中高会員	小学生会員	家族会員	名誉会員	合計
17					2	19
2,000 円	1,000 円	800 円	500 円	3,000 円		

高知地学研究会 会長 南 寿宏

E-mail hirot@ark.ocn.ne.jp

ジオロジー鉄道の旅 JR奈良線 天井川の旅

南 寿宏

1 はじめに

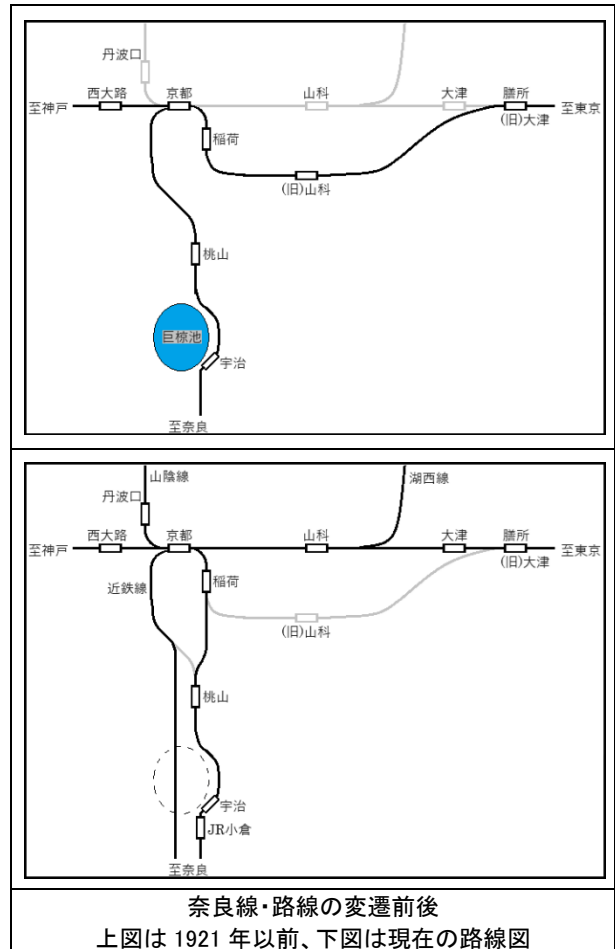
JR西日本の奈良線は、京都駅から京都府木津川市の木津駅を結ぶ、全長 34.7km のローカル線である。ローカル線と書いたが、京都駅から宇治駅までは、沿線に東福寺(東福寺駅)、伏見稲荷(稲荷駅)、平等院(宇治駅)等の有名な社寺を持ち、参詣・観光客で大いに賑わう。京都市内の他の観光地と同じく、日本語よりも英語や中国語等の外国語が聞こえる、国際路線でもある。

奈良線は、その名称にもかかわらず全線が京都府内で、奈良県に入らないというのは、鉄道ファンには有名な話だ。宇治駅以北は最近やっと複線化されたが、宇治駅以南に未だに単線区間が長い。本稿では、その単線区間に存在するトンネルについて述べる。

京都駅・稲荷駅間は 1879 年(明治 12 年)、東海道本線として開業した。1921 年(大正 10 年)、東山トンネルが開通して現東海道本線となった後、奈良線に組み込まれた。奈良線の旧線区間(京都～桃山間)は私鉄に払い下げられ、現在は近鉄京都線が走っている。

奈良線は桃山駅以南で大きく東に迂回している。桃山駅の南には巨椋(おぐら)池という縄文時代(諸説あり)に形成された人造池があり、それを避けるためである。巨椋池は豊臣秀吉の土木工事で姿を変え、昭和の時代に干拓されて消滅した。現在その中央を近鉄京都線が通っている。最近宇治駅の南に新設された JR 小倉(おぐら)駅の駅名は、漢字は違うが、この巨椋池に由来する。

風水(陰陽道)によると、都は、北に山、東に川、西に道、そして南に池があるのが適地と言われる。だから桓武天皇は、新都として、北に船岡山、東に鴨川、西に山陰道、そして南に巨椋池があるこの京都の地を選んだのである。



2 天井川トンネル

JR 小倉駅以南の奈良線の左右には、主に花崗岩からできている低山が広がる。花崗岩は風化に弱く、風化された土砂(真砂(マサ))を多く流すため、河川は天井川となることが多い。奈良線およびその西を平行して走る片町線(学研都市線)には、この天井川を貫くトンネルが複数個存在する。



前ページに、JR 奈良線の複線化の際、宇治駅以南が単線のまま残されたのは、乗降者数およびそれに伴う列車数が関係するが、この④～⑨の天井川トンネルがあるのも、その一因である。京都・奈良間を全線複線化して快速や普通電車を増便し、都市間特定運賃の導入など、運賃面で優遇処置をすれば、現在近鉄を利用している乗降者の相当数が JR に流れ、乗降者数は飛躍的に増加するだろう。しかしその代わり、天井川トンネルという歴史的観光資源は消滅する。

3 新期領家花崗岩類

前ページの地質図のように、奈良線、片町線沿線には新期領家花崗岩類が分布している。新期花崗岩類の岩相及び産状、放射年代を尾崎ほか(2000)より引用する。

新期領家花崗岩類は阿保花崗岩、柳生花崗岩、山城花崗岩、大峰花崗閃緑岩、井出南花崗岩、木屋花崗岩、交野花崗岩、田池花崗岩からなり、塊状または弱い片状構造を持つ。柳生花崗岩、山城花崗岩は中・粗粒の花崗岩類で、比較的規模の大きい岩体を形成する。大峰花崗閃緑岩、井出南花崗岩、木屋花崗岩はいずれも木津川より北側に分布し、他の新期領家花崗岩類と比べた場合、大峰花崗閃緑岩がやや優黒質、井出南花崗岩がやや優白質で粗粒、木屋花崗岩がやや細粒であるという特徴を持つ。		
山城花崗岩	主として斑状中・粗粒の角閃石黒雲母花崗岩及び花崗閃緑岩からなる。平均粒径 3-5 mm で 10-20mm のカリ長石の粗粒結晶を含み、色指数 10-15 程度の岩石である。しばしば斑状組織の目立たない岩相を示す。まれにやや優白質で角閃石を欠くことがある。また、しばしば弱い片状構造を示す。片状構造はカリ長石の粗粒結晶や有色鉱物の定向配列によるものである。暗色包有岩を含み、その長軸方向は片状構造の向きと一致する傾向がある。	70Ma 143Ma 84Ma
大峰花崗閃緑岩	中粒角閃石黒雲母トータル岩を主とし、花崗閃緑岩を含む。角閃石の量が多い岩相も見られ、黒雲母よりも若干多い場合もある。角閃石の多い岩相では自形の角閃石が目立つ。粒度はおおむね平均粒径 2-3mm である。	127Ma
井出南花崗岩	中・粗粒黒雲母花崗岩及び優白質黒雲母花崗岩からなる。角閃石は肉眼では認められないが、鏡下で含むことがある。粒径は平均 3-5mm 程度、色指数は 3-10 程度である。自形で大きめ(4-5 mm)の黒雲母が目立つ。山城花崗岩との相違は明瞭ではない。中島(1960)の記載では粗粒岩相となっているが、粗粒であるのは鳴子川沿いに限られており、不動川及び天神川沿いでは平均粒径 3-4mm の中粒岩相である。	
交野花崗岩	中・粗粒黒雲母花崗岩からなる。平均粒径は 3-5mm 程度であり、色指数は 8-15 程度である。まれに弱い片状構造を示す。カリ長石が斑晶状に 20mm 大の大きさになることがある。	
田池花崗岩	細・中粒黒雲母花崗岩からなる。平均粒径は一般に 1-2mm 程度であるが、まれに 2-3 mm 程度になる。図幅地域内ではほとんどが真砂化している。	
尾崎正紀・寒川旭・宮崎一博・西岡芳晴・宮地良典・竹内圭史・田口雄作(2000): 5 万分の 1 地質図幅「奈良」説明書 地質調査所		

これら花崗岩が上記マサとなり河川を運搬され、天井川を形成した。

天井川(テンジョウガワ) raised bed river 堤防に挟まれていた流路に多量の砂礫が堆積し、河床面が平野面より高くなった河川。河床面が高くなったため堤防を高くすると、さらに堆積が進み、平野との比高は大となる。この意味で、天井川は人工的な地形である。扇状地の河川や、崩壊しやすい岩石の山地から流出する河川は、運搬する土砂や礫が多く天井川となりやすい。前者としては富山県の常願寺川、後者としては近江盆地の草津川、前者と後者の組み合わせたものとしては六甲山麓の河川があり、最大比高は 8 m に達する。 [中山正民, 地学団体研究会編 新版地学事典]	天井川の形成過程
--	-----------------

東海道本線(東京～神戸)の草津駅、芦屋駅の近くに天井川があることは有名である。前者は草津川が廃止され、後者はトンネルがコンクリート構造に改変されており、旅情は減少している。その反面、本稿の奈良線・片町線の沿線は、掘削以来の歴史的建造物である天井川トンネル(隧道)が多数残存している。しかし、トンネルの老朽化、社会の変遷(複線化等)により、いつまで存続するか分からないので、機会があれば訪問してほしい。

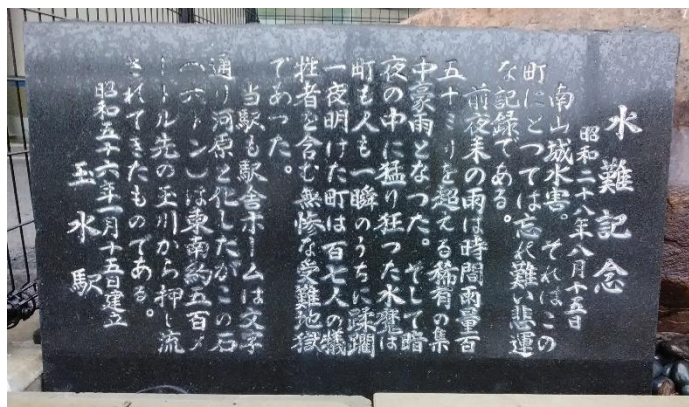
J R 奈良線沿線の京都府井手町には多くの史跡がある。同町役場至近の玉水駅からこれらの史跡への案内を次ページに載せる。

3 奈良線玉水駅周辺の名所旧跡 ((2)～(6)は井手町ホームページによる)



井手町名所旧跡ルートマップ
Mapion に加筆・編集

(1) 玉水駅構内 水難の碑



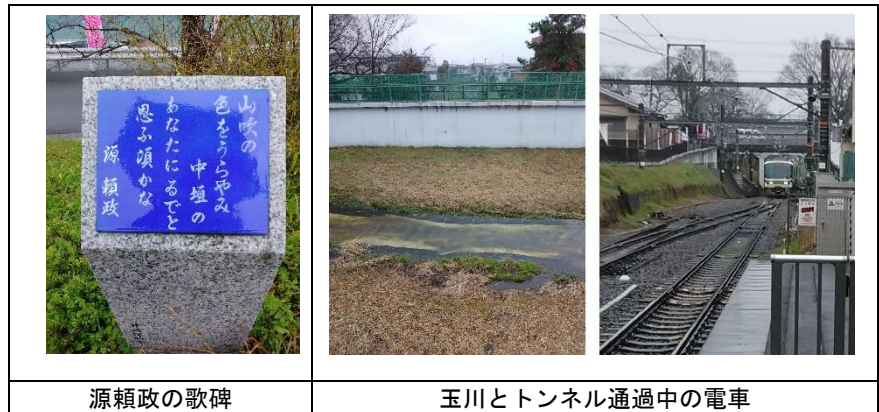
JR 奈良線玉水駅構内の大石と水難の碑

玉水駅構内に水難の碑がある。1953 年(昭和 28 年)の南山城水害によって玉川が氾濫した。そのときに駅ホームまで押し流されてきた大石が駅プラットフォーム内に保存されている。

(2) 玉川天井川トンネル(JR 玉水駅より約 0.3 キロメートル 徒歩約 5 分)

玉水駅から南を見ると、トンネルが見える。これが玉川天井川トンネルである。駅から徒歩 5 分で天井川に到達する。

1953 年に氾濫したのは、この地点より少し上流のように考えられる。現地には、平安時代末の武士源頼政の歌碑があり、川辺には山吹が植えられている。



(3) 六角井戸(JR 玉水駅より約 1.0 キロメートル 徒歩約 15 分)

聖武天皇の玉井頓宮にあったものと言い伝えられ、「公(橘諸兄)の井戸」として語りつがれてきた六角井戸は、石垣地区に現存している。この井戸は、据え付けられた石版が 6 枚組み合わさったもので、六角の形となっていることから「六角井戸」と呼ばれている。

(4) 橘諸兄公旧跡(JR 玉水駅より東へ約 1.3 キロメートル 徒歩約 25 分)

橘諸兄は、井堤寺を建立するなど井手を拠点として活躍した奈良時代政治の要人である。

684 年に生まれ、740 年に 45 代聖武天皇を井手の玉井頓宮にまねき、749 年には正一位左大臣になったと伝えられている。また、「万葉集」の撰者としても知られた文人で、父美努王とともに井手の地を愛し、玉川岸にヤマブキを植えたといわれている。

(5) 井手火山灰層(JR 玉水駅より東へ約 1.3 キロメートル 徒歩約 25 分)

橘諸兄公旧跡の前の竹林に、火山灰層が 2001 年に発見された。この火山灰層は、近畿地方から東海地方までの広範囲で発見されている恵比須峠・福田テフラに同定されている。この火山灰は岐阜県高山地方周辺で 175 万年前に起こった火砕流を伴う噴火によるものだと思われる。

(6) 小野小町塚(JR 玉水駅より東へ約 1.5 キロメートル 徒歩約 25 分)

平安の女流歌人にして六歌仙のひとりとされる小野小町(生没不祥)。

冷泉家記によると井堤寺にて 69 年の生涯を閉じたといわれている。

源氏物語の地学
石山寺硅灰石（けいかいせき）

南 寿宏

0 はじめに

NHK の今年の大河ドラマは『光る君へ』。主人公は紫式部である。
紫式部に所縁のある寺は、京都の蘆山寺と大津の石山寺である。

1 蘆山寺(京都市上京区寺町通り広小路上る北之辺町) 京都市バス府立病院前徒歩 5 分



蘆山寺 源氏庭
2024/3/22 取材 以下同じ



元三大師

蘆山寺は紫式部邸跡(諸説あり)で、桔梗で有名な庭があり、源氏庭と呼ばれる(上左図)。
桔梗は明智光秀の家紋であり、蘆山寺に光秀関連のものがあることは有名である。詳細は各自でお調べ願う。

上左図の華麗なる紫色の桔梗を見よ！

なに、見えぬちゃと？

であるからして、お主は修業が足りぬのぢや。心の眼で見るが好い！

蘆山寺はまた、元三大師の寺である。上右図が大師の像である。この大師の像を見たことがある人は多かろう。像をそのまま載せることは恐れ多いので、編集して載せる。

紫式部の歌は、源氏物語に多数あり、蘆山寺の庭にも、結晶片岩に刻まれた歌碑がある。

めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな

百人一首 57 紫式部

ある日紫式部は幼友達と偶然再会した。でも、その人かどうか確認できないまま、その人は帰っていった。そのことを雲間に隠れる月に託して詠んだ歌である。



紫式部歌碑(蘆山寺内)
岩種は緑色片岩と思われる。

2 関蟬丸(せきせみまる)神社(大津市逢坂一丁目) 京阪京津線大谷駅徒歩 3 分

この神社は、紫式部のライバル、清少納言に関連する。百人一首には清少納言の「よに逢坂の 関はゆるさじ」の歌がある。

百人一首	夜をこめて 鳥の空音は はかるとも よに逢坂の 関はゆるさじ
拙訳	夜も明けないのに 鶏の鳴き声を 真似しても この逢坂の 関は決して開きませんよ
史記	孟嘗君は秦の追跡から逃げ、函谷関の関所に至った。まだ夜明け前で関所は閉まっていた。孟嘗君は部下に命じて鶏の鳴き声を真似させたところ、関所の番人は夜明けと勘違いし、関を開けた。そこで孟嘗君は関を通り、脱出した。

右図は神社入り口にある車石。車石とは、荷車で山道を越えるとき、車輪がスムーズに回るように、花崗岩の岩板を敷き、窪みをつけたものである。

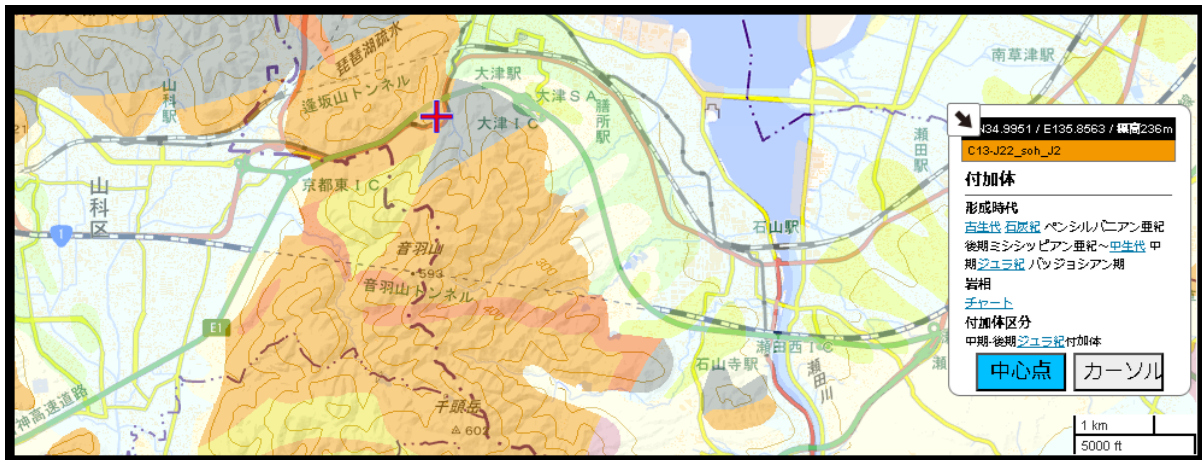
さて、紫式部は自身の日記で清少納言のことを次のように評している。

紫式部日記	清少納言こそ、しなり顔にいみじうはべりける人。さばかりさかしだち、真名書き散らしてはべるほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。
拙訳	清少納言こそは得意げな顔をして、文に漢字を使いまくる人。でも、よくよく見れば、間違いだらけ。あほちゃうか。



車石
関蟬丸神社内

清少納言の父親は、梨壺の五人の一人で、歌人としても名高い清原元輔。しかし彼女は、いくらせがまれても決して歌を詠まなかった。元輔の娘がこの程度の歌しか詠めぬのか、と笑われるのは彼女のプライドが許さなかったのであろう。先ほどの「よに逢坂の」の歌は例外中の例外。「光る君へ第六回『二人の才女』」では清少納言役のファーストサマーウイカさんが実に高慢な女性を演じていた。



逢坂山地質図(産総研シームレス地質図を編集)

逢坂山は図中+印

逢坂山は、上地質図により、中期・後期ジュラ紀付加体のチャートから、すぐ南の岩体は中期・後期ジュラ紀付加体の混在岩でできている。この地質体は、石山寺を構成している岩体と同じである。石山寺の岩体が田上花崗岩による接触変成作用を受け、珪灰石化していることは、次項で述べる。

ここで一息 18 禁だよ

下左図は、最近発売された林望氏の好著『枕草子の楽しみかた』である。教科書には絶対に採用されない文が満載で、それがやたら面白い。詳しくは購入のうえ（立ち読みはやめ給え）、愛読されたいが、その一例を挙げる。

「孫のいる男女の昼寝」というものがある。これを彼女は、清少納言は「すさまじ（がっかりだ）」と感じる。一読、じいじ、ばあばが昼ひなか、こっくり舟をこぐことを想像するが、そうではない。当時は早婚で、このじいじ、ばあばは40歳前後で、まだまだ現役世代。そういう二人がまっ昼間からお盛んで、という状況のようである。

枕草子の『昼寝』というワードにはご注意ください。

なお、枕草子の中のこの種の話は清少納言自身の体験だというのが、林氏のお考えである。

林氏は『枕草子の楽しみかた』の前に『源氏物語の楽しみかた』（下中図）を刊行している。源氏物語も、内容面では、ずいぶんな著作であるが、枕草子ほど露骨ではないためか、教科書にそれなりの描写はある。

源氏物語には、与謝野晶子、谷崎潤一郎等、名立たる文筆家が訳している。それらは、単なる古文の現代語訳ではなく、現代文学作品としてその価値を有する作品として、名高い。一方、日本文学研究家のアーサー・ウェイリーの英訳本（本号 p. 14）およびその佐復秀樹日本語訳という、『逆輸入本』とでもいうべき不可思議な作品もある（下右図）。前述林氏にも日本語訳があり、祥伝社から文庫本化されている。

それでは、原文、ウェイリー英訳本、佐復日本語訳本、林訳本の順に紹介する。編集後記もご覧いただければうれしい。

源氏物語	男君はとく起きたまひて、女君はさらに起きたまはぬ朝あり。
英訳本	There came a morning when the gentleman was already up and about, but the young lady was still lying abed.
佐復訳本	そして、紳士の方はもうすでに寢床を離れているが、若い淑女の方はまだ床に横たわっているという朝がやってきた。
林訳本	男君が早く起き出してきたのに、女君は、いつまでも寢床から出てこない、そういう朝があった。

ここで、男君は光の君、女君は紫の上である。そのあとの状況は、下中図『源氏物語の楽しみかた』に詳しい。



林望著
「枕草子の楽しみかた」



林望著
「源氏物語の楽しみかた」



佐復秀樹日本語訳
「ウェイリー版源氏物語」

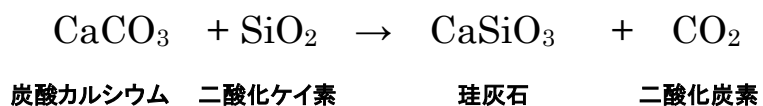
3 石山寺(大津市石山寺一丁目) 京阪石山坂本線石山寺駅徒歩 10 分

石山寺の本堂横には、紫式部が源氏物語を執筆したとされる、源氏の間がある（写真は本号表紙）。



石山寺 珪灰石露頭写真

石山寺境内には、国指定文化財天然記念物の珪灰石がある。天然記念物の指定は 1922 年で、2007 年には、「日本の地質百選」にも選ばれている。地層としての原岩は石灰岩・チャート互層であり、厚さ 10～100 cm の灰白色石灰岩と厚さ 5～30 cm の灰色チャートの互層が、田上花崗岩体による接触変成作用によって珪灰石ないし大理石と珪岩の互層となっている。接触変成作用の化学反応式は次のとおりである。



岩体前に説明板があるので、次ページに載せる。光の反射で見づらいので、その下に浄書して併載する。

国指定文化財

天然記念物

石山寺珪灰石

（大津市石山寺一丁目）

石灰岩が花崗岩による熱変成作用を受けると多くの場合、大理石となりますが、一部に珪灰石となるものがあります。石山寺のように雄大な珪灰石は珍しいものです。

本堂横の中庭正面にある大理石と珪灰石で出来た岩のかたまりの中には、五ミリメートルから二〇ミリメートル大の束状の珪灰石の結晶がみられます。境内のいたるところに露出していることから、石山寺の名前の由来となり、本堂厨子内の勅封本尊如意輪観音像もこの珪灰石上に鎮座しています。

大正十一年（一九二二）三月に国の天然記念物に指定されました。

令和三年（二〇二一）三月

大津市教育委員会



National Designated Cultural Property
Natural Monument
Ishiyamadera Temple, Wollastonite

国指定文化財

天然記念物

石山寺珪灰石

（大津市石山寺一丁目）

石灰岩が花崗岩による熱変成作用を受けると多くの場合、大理石となりますが、一部に珪灰石となるものがあります。石山寺のように雄大な珪灰石は珍しいものです。

本堂横の中庭正面にある大理石と珪灰石で出来た岩のかたまりの中には、五ミリメートルから二〇ミリメートル大の束状の珪灰石の結晶がみられます。境内のいたるところに露出していることから、石山寺の名前の由来となり、本堂厨子内の勅封本尊如意輪観音像もこの珪灰石上に鎮座しています。

大正十一年（一九二二）三月に国の天然記念物に指定されました。

令和三年（二〇二一）三月

大津市教育委員会



National Designated Cultural Property
Natural Monument
Ishiyamadera Temple, Wollastonite

上：石山寺内 珪灰石説明板 下：説明板浄書

川澤啓三先生の著作目録（未定稿）

三本 健二

高知地学研究会の初代会長^{かわさわけいぞう}川澤啓三先生（1932-2019）の論文、著書、随想などの目録を作成した。

できる範囲で情報収集をしたけれども、掲載できていないものもあるかと思う。ここに掲載されていない情報をお持ちの方は、ご連絡くださいますようお願いいたします。

1 姓の表記

1986 年以前：川沢，1987 年以後：川澤

2 著作の概観

1958 年 論文「高知県伊野町北方の古生界」を『高知大学学術研究報告』で発表された。高知県の地質に関する文献においてしばしば引用される重要な論文である。卒業研究の精華であるが、今日ではありえないことに第一著者が指導教官になっている。論文名をネット検索すれば、高知大学学術情報レポジトリで PDF が閲覧できる。

1970-1973 年 高知第四紀研究グループ（高知第四系グループ）及び土佐四万十帯研究グループという団体研究での共著論文を発表された。

1974-1992 年 市町村史において、自然編の全体又はその中の地質について執筆された。

須崎市史：地質，土佐市史・香我美町史・吾川村史・野市町史：自然編

1999-2004 年 高知県発行の『土佐の自然』編集委員として、各市町村の地質及び地形について執筆された。

『土佐の自然』：1973 年創刊，85 号（2001 年 2 月）までは印刷，86 号以降は県の HP 掲載のみ，99 号（2004 年 3 月）をもって廃刊。国立国会図書館の HP（インターネット資料収集保存事業）で 44 号（1987 年 3 月）から 99 号までが閲覧できる。

2007 年 日本地質学会の「50 年会員顕彰」を受けられて、ご自身の履歴を本会報 31 号に寄稿された。

3 著作目録

【凡例】団体研究で著者に個人名表記がない文献は非掲載。排列は発表年順。（）内は雑誌の号番号。共著のものは [] 内に著者名を掲載。学会講演要旨は末尾に「＊講演要旨」と付記。

1958 年 高知県伊野町北方の古生界．高知大学学術研究報告, 7(19), 1-8, 1 pl. [甲藤次郎・川澤啓三]

1965 年 愛媛県河辺川（肱川水系）周辺の地質について．高知県立須崎高等学校研究論誌, (1), 7-14, 付図（川辺川流域の地質図）．

1966 年 石灰岩の分類．附．土佐山田町宮ノ口の石灰岩について．高知県立須崎高等学校研究論誌, (2), 1-18.

1967 年 Some Lower Cretaceous Bivalves from the Shimantogawa Group of South Shikoku. Transactions and proceedings of the Palaeontological Society of Japan, New series, (66), 73-82, pl. 9. [Hayami, Itaru & Kawasaki, Keizo]

1970 年 高知県南西部四万十川北岸河口付近の中位段丘．地質学雑誌, 76(2), 81-82. [満塩博美・川澤啓三・近藤日出男・西嶋輝之・高知第四系グループ] ＊講演要旨

1973 年 高知県下の四万十帯研究の現状と問題点 (I) 中生界について．四万十地向斜に関する総合的研究, 研究連絡誌, (2), 53-57. [川澤啓三・土佐四万十帯研究グループ] ＊講演要旨

1973 年 四国四万十帯白亜系の地質構造概観．四万十地向斜に関する総合的研究, 研究連絡誌, (2), 62-66 [満塩博美・川澤啓三・川添晃] ＊講演要旨

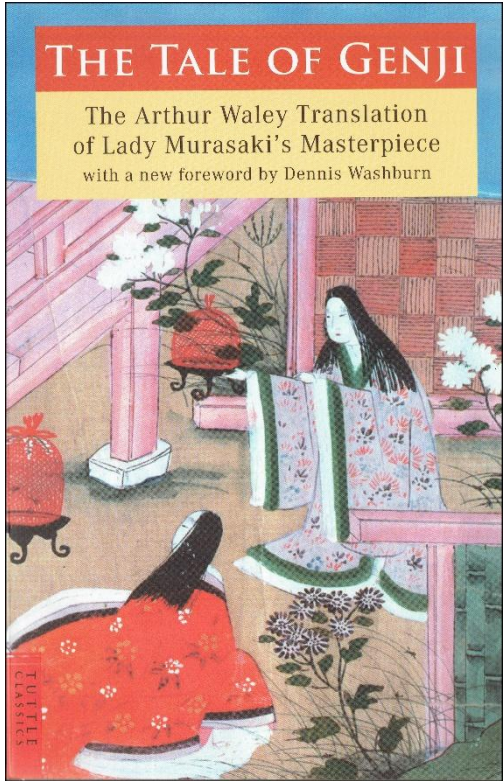
1973 年 須崎市浦ノ内湾付近の白亜系．日本地質学会関西支部報(75)西日本支部報(58)合併号, 5. [川澤啓三・土佐四万十帯研究グループ] ＊講演要旨

1974 年 地質．須崎市史，須崎市史編纂委員会編，須崎市, 13-50, 1 付図.

- 1975 年 石炭系紡錘虫群, 二疊系紡錘虫群. 平田茂留, 化石の目録と図集第 3 集・高知県産古生代化石, pl. 13-20.
- 1976 年 高知県吾川村付近の古生界についてー四国中央部の秩父帯北帯の逆転の可能性ー. 研究紀要 (高知県立高知追手前高等学校), (1), 横書部分, 1-8.
- 1977 年 四国中央部の秩父帯北帯の地質構造. 日本地質学会学術大会講演要旨/第 84 年学術大会 (1977 高知), 215.*講演要旨
- 1978 年 橋本フズリナ標本 (高知県立化石館所蔵) について. 研究紀要 (高知県立高知追手前高等学校), (3), 横書部分, 1-20.
- 1978 年 平田茂留先生とその蔵書について. 高知市民図書館報, (2), 3.
- 1978 年 自然編. 土佐市史編集委員会編, 土佐市史, 土佐市, 3-46, 1 付図.
- 1979 年 地球の科学ー身近なところからー. 追手前高校図書館ニュース, (29), 1.
- 1985 年 自然編. 香我美町史編纂委員会編, 香我美町史上巻, 香我美町, 2-37.
- 1986 年 紡錘虫. 三本健二編著, 高知の化石-高知化石研究会会員所蔵標本図集-. pl. 5.
- 1987 年 自然編. 吾川村編, 吾川村史上巻, 吾川村, 3-52.
- 1992 年 自然編. 野市町史編纂委員会編, 野市町史上巻, 野市町, 3-42, 1 付図.
- 1995 年 戦没地質学徒を偲んでーきけわだつみの声ーに寄せて. 高知地学研究会会報, (2), 3-4.
- 1996 年 『野帖余白』蔵田延男 (1941 年・朋文堂) について. 高知地学研究会会報, (5), 4-7.
- 1997 年 高知市内の蛇紋岩の分布. 高知市文化財調査報告書, (17), 1-15.
- 1999 年 吾川村の地形と地質. 大地の横すべりー中津山・吾川ナップ. 土佐の自然, (79), 6-9.
- 1999 年 梶原町の地形と地質. 土佐の自然, (80), 6-10.
- 1999 年 土佐山田町の地形. 土佐の自然, (81), 6-9.
- 2000 年 三原村の地形と地質. 土佐の自然, (84), 6-9.
- 2001 年 窪川町の地形と地質. 土佐の自然, (86).
- 2001 年 土佐市の地形と地質. 土佐の自然, (87).
- 2002 年 伊野町の地形と地質. 土佐の自然, (88).
- 2002 年 香我美町の地形と地質. 土佐の自然, (89).
- 2002 年 大正町の地形と地質. 土佐の自然, (91).
- 2003 年 夜須町の地形と地質. 土佐の自然, (94).
- 2003 年 大野見村の地形と地質. 土佐の自然, (95).
- 2003 年 野市町の地質. 土佐の自然, (96).
- 2004 年 編集委員の思い出の記. 土佐の自然, (99).
- 2007 年 50 年会員顕彰をうけて. 高知地学研究会会報, (31), 5-6.

編集後記

- 会報の最近号で、会報用紙の紙質をいろいろと試してみましたが、本会報より、元の厚さのものに戻しました。元の紙でもそれほど紙代が変わらないし、裏写りがほとんどない、というのが、その理由です。ご了解ください。
- 本会初代会長である川澤啓三先輩がこの世を去ったのは令和元年7月でした(本会報第50号)。このたび、三本健二氏(本会会員)が先輩の偉業をまとめました。氏のご好意で本会誌に掲載することができたことを感謝します。
- 今年のNHK大河ドラマは、紫式部を主人公とする「光る君へ」
このドラマでは、紫式部は「まひろ」、清少納言は「ききょう」と呼ばれていますが、この二人の本名は分かっておらず、ドラマの進行の都合上のことと思われます。
本号で軽く触れていますが、蘆山寺(紫式部邸跡)が桔梗(清少納言本名?)の庭で有名なのは、偶然でしょうか、面白いことです。 「いとをかし」
- 本号で、アーサー・ウェイリー英文訳「The Tale of Genji」、その日本語訳本「ウェイリー版 源氏物語」および林望訳「謹訳 源氏物語」の紹介をしました。源氏物語冒頭の原文及び訳本をどうぞご覧ください。

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。	
At the Court of an Emperor (for he lived it matters not when) there was among the many gentle women of the Wardrobe and Chamber one, who <u>though</u> she was not of very high rank was favoured far beyond all the rest.	
ある天皇の宮廷に(彼がいつの時代に生きていたのかはどうでもよい)、衣裳の間や寝室につかえる女性たち[更衣・女御]が大勢いたなかに、とても身分が高いわけではなかったが、ほかの者たちよりもはるかに寵愛を受けている人がいた。	
さて、もう昔のこと、あれはどの帝の御世であったか……。宮中には、女御とか更衣とかいう位の妃がたも多かったなかに、とびぬけて高位の家柄の出というのでもなかった桐壺の更衣とかいう人が、他を圧して帝のご寵愛を独占している、そういうことがあった。	
上より 紫式部「源氏物語」 アーサー・ウェイリー英文訳「The Tale of Genji」 佐復秀樹日本語訳「ウェイリー版 源氏物語」 林望「謹訳 源氏物語」 右 アーサー・ウェイリー英文訳「The Tale of Genji」	

ここで文語文法の豆知識を紹介しよう。

- 助詞「が」には主語を示す格助詞「が」と逆接の接続助詞「が」がある。
 - 逆接「が」は十二世紀以降に誕生した。
 - 源氏物語は十一世紀に成立した。
 - したがって、源氏物語冒頭の「いとやむごとなき際にはあらぬが」の「が」は接続助詞ではなく格助詞である。
 - ウェイリー英文訳の'though'および佐復日本語訳の「が」は、二人が紫式部の「が」が逆接の接続助詞であると解釈していることを表す。
 - 林訳の「が」は、林が紫式部の「が」が主語を示す格助詞であると解釈していることを表す。
- 日本語は、いとをかし。